

水稻の高温登熟に伴う技術対策

(玄米の品質確保に向けた技術対策)

福島県農林水産部農業振興課

8月上旬から気温が高く経過しています。

仙台管区気象台発表の東北地方1か月予報によると、9月は平年に比べ曇りや雨の日が多く、平均気温は平年並みまたは高い確率がともに40%となっています。

本年は出穂以後高温の日が続いていることから、刈り取りの適期が早まると見込まれるため、刈り遅れに注意してください。

1 水稻の出穂状況

県内の主要品種の出穂状況は、ひとめぼれが8月4日、コシヒカリが8月10日と平年より2日早まっています（農林事務所調査の平均値）。

出穂後高温で経過しており、今後も気温は高めに経過する予報が出されていることから、刈り取り時期に特に注意して作業の準備を進めてください。

2 今後の技術対策

(1) 早期落水防止

開花後25日間は、米粒は急速に肥大します。

また、落水時期は遅いほど収量及び品質の確保に効果があります。

このため、落水時期は湿田等を除き出穂後30日以降とし、それまでは、間断かんがいで根の活力を維持しましょう。

(2) 適期収穫

本年は出穂以後高温の日が続いていることから、胴割米等の発生が懸念されるので、刈り取り始期は出穂後の積算気温950℃を目安とし、実際の刈り取りは、ほ場における籾の黄化率が85～90%であることを確認して行ってください。

刈り遅れるほど胴割米が多く発生する要因となりますので、刈り取り晩限は積算気温で概ね1200℃を目安としてください。

なお、積算気温については、最寄りの農林事務所にお問い合わせください。

(3) 乾燥時の注意

乾燥中の急激な水分の変化は胴割れ米発生を招く事となりますので、乾燥速度は毎時0.8%以下を目安としてください。

高水分の籾は、乾燥中に一旦乾燥機を止める二段乾燥を行い、胴割米の発生を防ぎます。

(4) 調製作業の注意

適切な流量、色彩選別機の利用等により白未熟粒の混入を低下させましょう。

(5) 土壌の混入防止

田面が乾いた状態で作業を行うなど、土壌中にある放射性物質が混入しないように注意して刈り取り作業を行いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 TEL024(521)7339

(以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください)

URL：http://wwwcms.pref.fukushima.jp/pcp_portal/contents?CONTENTS_ID=11224

モバイル県庁：福島モバイル県庁→お知らせ・各種情報→農業技術情報

(右欄に掲載のQRコードよりご覧ください)

ふくしま新発売：以下のURLより最新の農林水産物モニタリング情報、イベント情報等をご覧ください。

URL：<http://www.new-fukushima.jp/>



モバイル版 QRコード